

第 13 章 環境保全啓発事業・環境教育

1 環境保全啓発事業

(1) 環境月間

環境省では、環境基本法に定められた 6 月 5 日の「環境の日」を中心とする 1 ヶ月間を環境月間と定め、広く国民一般に環境活動への積極的な参加を普及啓発しています。本市においても、環境月間の趣旨を市民、事業所等に啓発するため、各種の行事を実施しています。

平成 23 年度の行事は、表 13-1(1)のとおりです。

表 13-1(1) 環境月間行事内容

(平成 23 年度)

行 事 名	内 容	場 所 等
「環境の日」キャンペーン	横断幕により環境保全について広報。	平南白土地内
いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動	6 月と 10 月に海岸、公園及び家庭周辺等の一斉清掃を実施。	市内全域 参加人数： 延べ 89,945 人
ライトダウンキャンペーン 「ブラックイルミネーション 2011」「セタライトダウン」	地球温暖化防止のため、ライトアップ施設や家庭の電気を消すよう呼びかけ。	実施施設 ・いわきマリンタワー ・塩屋埼灯台 など 計 16 施設

(2) 新エネルギー啓発事業

新エネルギーについて理解を深めてもらうため、小中学生を対象とした副読本「みんなの新エネルギータウン」の作成や出前講座「WHAT'S 新エネ」の開催など、次世代を担う子供達をはじめ、市民への啓発事業を実施しています。

2 環境教育・普及啓発の推進

(1) 環境アドバイザー派遣事業

本市では、環境に配慮したまちづくりを推進するため、自然とのふれあいや野外観察、健康な暮らし、緑化、省エネルギーや省資源の方法など、市民の皆様が自発的な環境保全活動に取り組むに当たって、参考となる知識を提供する「環境アドバイザー」を市内各地へ派遣しています。

平成 23 年度は東日本大震災の影響により事業を中止しておりましたが、平成 24 年度は事業を再開しました。

表 13-2(1)-1 環境アドバイザー派遣実績

年度	受講者数	派遣回数	派遣人数
平成 18 年度	1,343	39	69
平成 19 年度	1,611	44	72
平成 20 年度	1,563	40	58
平成 21 年度	2,086	55	88
平成 22 年度	1,910	50	75

～環境アドバイザーの派遣申請等について～

市民のみなさまが市内において、参加者 10 人以上の環境に関する講演会や講習会、自然観察会を主催する場合、講師として「環境アドバイザー」を派遣しています。派遣を希望される方は開催予定日の 30 日前までに環境企画課までお申込みください。

また、「環境アドバイザー」として登録していただける方についても随時募集しておりますので、登録を希望される方は環境企画課までお問い合わせください。

【お申込みにあたって】

- ▼ 講師の謝礼・交通費は市が負担しますが、会場・資料など開催に必要な準備は主催者にてご用意ください。
- ▼ 講演内容等の具体的な事項は、主催者とアドバイザーにて協議していただきます。
- ▼ 政治、宗教、営利を目的とした講演会等への派遣はいたしません。

表 13-2(1)-2 環境アドバイザー派遣内容一覧

(平成 24 年 6 月末現在)

分類	講演内容		講師氏名
自然環境	自然観察会	自然観察会指導	古川 眞智子 草野 秀雄 根本 輝男
		キャンプの支援・指導	鈴木 信一
		自然観察から始まる環境教育 自然観察会のプログラム組立及び実施	野口 紘
	ネイチャーゲーム	ネイチャーゲーム指導	古川 眞智子 鈴木 信一 根本 輝男
	自然環境	幼児期の自然体験活動の支援・指導	草野 秀雄
		学校の総合学習、環境学習の支援・指導	草野 秀雄 鈴木 信一
		自然と環境との関わりについて	古川 眞智子
		河川や田んぼ等に生息する淡水生物の調査指導	大越 秀夫
		水生生物による水質調査指導	大谷 善浩
		水生生物の解説（特に魚類）	平川 英人
		河川の環境調査(水生生物調査)と水質改善の啓発	大平 恭二
		環境-生命-物質の循環について、自然環境に生きる動物と「いのち」、いわきの優れた自然環境について	山本 廣
	植物	農薬の使用について	高木 力
		オーガニックコットン栽培講習会	島村 守彦
	天体観察・観測	天体観察及び天体観測の解説・指導	桂 伸夫
生活環境	水質調査	河川や田んぼ等に生息する淡水生物の調査指導	大越 秀夫
		水生生物による水質調査指導	大谷 善浩
		水生生物の解説・水質調査指導（特に魚類）	平川 英人
	生活排水・水環境	生活排水の浄化のしくみ、水の安全と健康、水環境の保全と再生	青木 敏春
		水環境と生活排水	栃内 賢一
		環境負荷を軽減する生活改善の支援	大平 恭二
		雨水利用システムコンポストトイレ講習会	島村 守彦
		水環境と生活との係わり	橋本 孝一
		水道水の安全確保（放射性物質と農薬の汚染防止対策）	引地 宏
	ごみ・廃棄物	食品の安全性について	高木 力
		地産地消、食育、3Rの提案及び実践	宮内 眞佐子
		ごみのゆくえと再生へのアプローチ	青木 敏春
		ごみ問題（ごみ拾い）について	小林 健四郎
		循環型社会推進の必要性	石塚 諒
	公害・化学物質	家庭でできる生ごみの減量と有効利用、生ごみ堆肥化及びその堆肥による野菜や花の栽培等	先崎 久美子 武田 憲子
		大気、水質、土壌の汚染について 環境アセスメントについて	高木 力
		省エネルギー	青木 敏春
	現場での体験を通じた「環境」に対する意識向上について		小林 健四郎
都市環境	河川環境、治水、利水		橋本 孝一
	都市公園の保全と散策による健康維持		引地 宏
	環境経営の支援（エコアクション21）、環境負荷低減の活動内容		青木 敏春
	天体観察を通じた自然環境保全啓発（光害と大気環境保全）		桂 伸夫
広域環境	地球環境	地球温暖化と生活への影響	青木 敏春
		地球温暖化及び異常気象の要因と対策の現状について	石塚 諒
		地球温暖化と地球にやさしくらしかた	栃内 賢一
		地球環境問題と生活との係わり	橋本 孝一
		再生可能エネルギーの利用と温暖化対策	引地 宏
		熱帯雨林気候のマングローブの働き	山本 廣
	新エネルギー	手作りソーラーパネル・手作りLED街灯講習会	島村 守彦
		小型風力発電システム講習会	
広域環境	自然エネルギー独立非常電源システム製作講習会		
	木材の利用状況と放射性物質の汚染木材の処理		引地 宏

(2) 出前講座等

環境問題や公害防止に関して必要な知識の普及・啓発を図るため、市役所出前講座などに市職員を講師として派遣しています。

平成 23 年度の実施状況は、表 13-2(2)のとおりです。

表 13-2(2) 出前講座等への講師派遣実績

(平成 23 年度)

事業名	目的	開催場所	参加者人数
What's 新エネ	「新エネルギーとは何か」「なぜ新エネルギーが必要なのか」について学習します。	いわき市立中央台南中学校 外 1カ所	計 90 人
くらしと環境問題 “そしていわき市の環境 now”	環境問題、本市の環境・公害の現状等を知ることにより、環境保全に対する意識の高揚を図る。	いわき市立中央台南中学校	26 人
いわき市の環境を守る (施設見学)	環境監視センターを見学し、いわき市の環境保全と公害防止対策の現状について学ぶ。	なし	0 人
川の生き物観察会	川の生き物を調べながら水の汚れ等について考える。	なし	0 人

(3) せせらぎスクール

福島県では、例年、小中学校、高等学校、各種市民団体等を対象とした「水生生物による水質調査」を行う団体を『せせらぎスクール』として募集していましたが、東日本大震災により発生した放射能汚染等の問題により、平成 23 年度以降は募集を行っておりません。

事業の再開が決まりましたら、市ホームページ等でお知らせします。

なお、本事業概要は次のとおりです。

- ① 対 象 小・中学生、高校生、各種団体等
- ② 実施時期 6 月～9 月末
- ③ 活動内容

川底から採取した水生生物について、定められている 30 種類の指標生物に照らし、その種類と数により水質を判定します。

④ 教材の提供

参加団体には、福島県から調査に必要となる教材を提供します。

⑤ 活動状況

県内の延べ参加者数は 7,895 名で平成 9 年度から 14 年連続全国第一位であり、平成 22 年度における市内の延べ参加者数は 742 名となっています。

平成 22 年度の参加団体は、表 13-2(3)のとおりです。

表13-2(3) 市内のせせらぎスクール参加団体

(平成22年度)

No.	団体名	参加人数
1	いわき市立久之浜第一小学校 5学年	51 名
2	いわき市立上遠野小学校 第4学年1組	39 名
3	いわき市立桶売中学校 第3学年選択理科	9 名
4	いわき市立好間第一小学校 第5学年	85 名
5	いわき市立川前小・中学校	20 名
6	小川郷農地保全会	40 名
7	かわせみ流域会	50 名
8	下小川関場子供会	38 名
9	福岡・環境を守る会	33 名
10	上高久子供会	50 名
11	いわき市立中央台北中学校	12 名
12	福島県立勿来高等学校 理科学研究部	10 名
13	いわき市立沢渡小学校	37 名
14	昌平高校エコクラブ	12 名
15	いわき市立綴小学校	12 名

(4) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、将来を担う子どもたちが主体的に行う環境保全活動や環境学習を支援するクラブで、環境省や各自治体が応援しています。

事業概要は、次のとおりです。また、本市における平成 23 年度の登録団体は、表 13-2(4)のとおりです。

① 対 象 幼児、小・中学生、高校生

② 実施時期 通年

③ クラブの設立方法

● 1 人から登録可能

● サポーター（大人）が 1 人以上必要

※ サポーターとは、クラブの活動を補助する大人（連絡係）のことです。

● こどもエコクラブ全国事務局への登録手続きが必要

④ 教材の提供

活動のヒントとなる情報などが満載されたニュースレター（年 4 回）のほか、指導者向けプログラム等の支援ツールを提供します。

表 13-2(4) こどもエコクラブ登録団体

(平成 23 年度)

ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 人 数	グループの種類
まこと幼稚園子どもエコクラブ	クラブ員 113 人 サポーター 160 人	幼稚園
昌平高校エコクラブ	クラブ員 16 人 サポーター 1 人	学校・学年
ケロケロクラブ	クラブ員 2 人 サポーター 2 人	家族・親戚
いわき市立中央台北中学校理科部	クラブ員 18 人 サポーター 1 人	学校・クラブ
いわき市立石住小中学校 環境美化委員会	クラブ員 7 人 サポーター 9 人	学校・委員会

(5) 星空観察会

全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）は、参加者に光害や大気汚染などのない清澄な大気への関心を高めてもらうことを目的に、全国各地で一斉に肉眼、双眼鏡、カメラを使った身近な方法によって星空観察を行うもので、昭和 63 年（1988 年）から、毎年 2 回（夏期及び冬期）実施している事業です。

本市における平成 23 年度の実施状況は、表 13-2(5)のとおりです。

表 13-2(5) 星空観察会実施団体

(平成 23 年度)

NO.	団 体 名	場 所
1	いわき天文同好会	いわき市高久公民館

(6) 環境にやさしいくらしかたをすすめる会

平成 13 年 10 月、いわき市の環境に配慮したまちづくりを推進するための組織として、市民団体を中心に「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」が設立されました。

「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」では、次のことを重点に様々な事業活動を実施しています。

- ① 環境情報の提供
- ② 環境にやさしいくらしづくりを推進するための啓発事業の実施
- ③ 市民の環境保全活動に対する支援活動の実施